

# きっかりは彫刻

近代から現代までの日本の彫刻と立体造形



橋本 繁  
HASHIMOTO  
Heihachi

## 赤瀬川 原翠

AKASEGAWA  
Gempei



平柳 甲中  
HIRAKUSHI  
Denchu



准教授小川剛先生

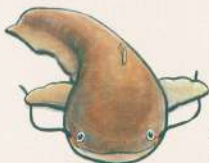
描いてみると、すでにキャラクターがしっかりしているので、それを追っかけているのではと思いました。

朝倉文夫《藤守》  
(cat.no.9)

モデルの「じいさん」の感じが出せると良いなと思います。姿勢に特徴があるなと思いました。とにかく表情がいい。大好きな作品なので描けてうれし  
いです。



高村光太郎《鯨》  
(cat.no.14)



橋本平八《達磨》  
(cat.no.19)

「ダルマっぽさ」ってもっとあるかも?と思いました。



平柳田中《鏡獅子試作頭》  
(cat.no.21)  
口の表情をつけてみると面白い  
と思いました。

助教木下裕士先生

荻原守衛《杭夫》  
(cat.no.3)

陰影をつけてのコミック風です。こちらは表情にコミカルな印象がありましたので、「え」と言わせてみました。



荻原守衛《文覚》  
(cat.no.4)

作品の背景も鑑みて、劇画調にしてみました。劇画調だと、筋肉の表情が良く映えます。

萱野優さん

荻原守衛《女の胴》  
(cat.no.2)

よく見ると筋肉が見えてきました。影がつけやすいので筆ペンでまずは描いてそのあとデジタルで仕上げています。一見ゴツゴツしているけど、見れば見るほど柔らかだと思いました。影を境界として捉えているのはデジタル作画ならではの画法です。



高村光太郎《手》  
(cat.no.11)

高田湊喜さん



橋本平八《幼児表情》  
(cat.no.18)

表情に注目しました。デフォルメとリアルな境目を意識しています。「うとうと…」している状態のマンガの表現を用いました。それと寝起きの不機嫌な感じです。体も、マンガっぽく、胴体を短くしてみました。

田副雄大さん

向井良吉《蟻の城》  
(cat.no.25)

上の方が顔に見えたので、二つの顔を描きました。人間の二面性とも表せるのではと思いました。右が怒っている顔、左が迷っている顔です。前傾姿勢気味です。



濱武茅乃さん

高村光太郎《手》  
(cat.no.11)

作品写真とは別サイドから描いてみます。手を描くのはもともと好きですし、すごい綺麗なかたちだなと思いながら描いています。



兵頭萌咲さん

戸張孤雁《曇り》  
(cat.no.12)

顔が見えないし、身体のラインが大事なのかなと思いました。描きながら、お尻が大きいし、腕は短くと気づきました。シルエットを目立たせるよう、紫で強調しました。



三木富雄《EAR》  
(cat.no.30)

耳だけ描くと気持ち悪い。人の輪郭を描いて、耳だけをリアルにしてみました。



藤井美沙希さん

平柳田中《姉ごころ》  
(cat.no.5)

「あ、お母さん来た!」というシチュエーションを想像して描きました。



実施日：2019年2月25日(月) 10:00 - 19:00

参加者

茨城大学芸術学部デザイン学科マンガ表現コース  
准教授小川剛先生、助教木下裕士先生  
3年生の有志 6名  
(萱野優、高田湊喜、田副雄大、濱武茅乃、兵頭萌咲、藤井美沙希)  
以上 計8名

会場

熊本市現代美術館 会議室・アートロフト

納品日：2019年3月24日(日)

当日のタイムスケジュール

10:00 美術館集合  
10:05 - 10:40 企画展「バブルラップ展」視察(学芸員による案内)  
10:45 - 12:00 学芸員から、展覧会の出来までの流れを説明。  
・「きっかけは「彫刻」。」展の概要説明、出品作品(予定)図版紹介、作品解説。  
・同時開催のコレクション展の概要説明、出品作品(予定)図版紹介、作品解説。  
12:00 - 13:10 昼休み 作品選択のディスカッション(参加者による自由選択)  
13:10 選定作品表明ならびに作画開始  
14:30 作品のラフ画披露  
15:00 作画  
16:30 中間発表  
18:00 出来たところまでの作品お披露目。まとめ  
19:00 終了。

